

## 夏のスイスの旅 (2012.7.17~7.26)

参加者：吉野（L） 関米 仲 青松秀 内田絵 河野 熊島 大平 計8名

レポート 大平

当初の5月催行予定でしたがいろいろと紆余曲折があり、ようやく7月の17日に出発の運びとなりました。念願のスイスということもありましたが、伸び伸びになったこともあり、この暑い中、またスイスに着くまで24時間もかかるという長旅も思いやると少し気分的に重いものもありましたが、成田エアポートで会長と河野さんに合流するとようやく旅行気分が盛り上がってきました。成田ではすでに他のメンバーも来ており、スイスフラン幾ら両替するかなど情報交換、私のここでの一番気になっていたことは長旅のゆえの飛行機の通路側の席を確保できるかどうか、グループが近くに席がとれることでしたが、これもなんなく叶い、空港で皆で夕食をとり、出国手続きし、エミレーツ航空という聞き慣れない航空会社の航空機に乗り込みました。さてどんな旅になったでしょうか？

エミレーツ航空はアラブ首長国の航空会社です。最新鋭のジャンボ機でしかも席はがらがら乗りこんで席が決まるとすぐと思いきい3席分、4席分を独り占めできファーストクラス並み、横になって眠れそう。ドバイまで約11時間これなら快適にすごせます。おかげでドバイまで約11時間かかるがうち6時間くらいは眠れた。他の方も同様でした。座席も若干広く感じられ、オイルマネーの国の航空会社と感じ入った。

## 7/17/-7/18



やっと着きましたドバイ 長かったね！



広いな！迷子になりそう

### <ドバイ国際空港とは>

ドバイの経済成長と共に利用客は増加している。2010年には、さらに6000万人を超える旅客高を予想しており、世界トップクラスのハブ空港を目指している。新ターミナルはこの旅客高の増加を見込んでさらに建設している。

この飛行場の規模。成田空港が田舎空港に感じられる。われわれはエコノミークラス、ラウンジで休むこともできず、外に出てみたいということも添乗員さんに断られ、ドルを持たずでは椅子でナンプレして過ごすほかはないか



まだ夜というのにさすが24時間空港。多様な人種、民族のデパート 人々の往来を見ているだけで飽きない



シャトルのホーム



このような所で6時間 前後が有るので実質4時間程度待つ



いよいよチューリッヒに向かう便に乗り込みます。この便はさすが乗客が多く、席を変えることはできませんし

た。機内食 2食 あとは日本映画も個々別々に見れるので時間がつぶせました。(液晶テレビは映画もゲームもパソコン接続もなんでもできる多機能ディスプレイでした)



もうワイン飲んだの？



そんなに飲んでだいじょうぶ？ ダブルで頼むのがわがクラブのルール



待望のスイス チューリッヒ国際空港にやっと着きました。午後13:30 ほぼ成田から食って寝ての約24時間 長かった!!!



“集まってください”と元気な添乗員金沢さん 総員21名のツアーです お世話になります



荷物を待っています



やっとスイスに入国 チューリッヒ空港からはからすぐにバスでスイスの首都ベルンに向かう



予想のスイスという景色はなく、どこの国にもある景色でした。期待が大きかったので少し落胆気味



おっ やっとスイスらしくなってきた 雪山と牧畜風景



遠くに雪山が見えてきた あれがかのアルプスの山か  
地図で見るとリギ山の方面



ベルンの最初の観光はバラ公園  
盛りは過ぎていていましたが



家族連れがのんびりと



公園からベルン旧市街を臨む



ここで最初の全員で記念写真





皆さん飛行機で横になって寝たので元気でした



ベルンのシンボルマークは熊 ここは熊公園 熊は大事にされています この川はライン川の上流という



ベルンのマルタ通り 石作りのアーケードが珍しい



仲さんの記念写真



女性4人組 我々8人は何時の間にか8人組と呼ばれるようになりました。



向うに 1530年に造られたという仕掛け時計



時報で仕掛けが始まると言うのでそれまで待つ皆さん



聖堂と石畳みの路、ショーウィンドウ、歴史を感じる石造りの建物 彫刻 ヨーロッパは国は違えど、同一文化圏似たように景観に思える。日本はこの文化圏と対極にある特異な国とつくづく感じてしまう。



ベルンの大聖堂 本日は中は見れませんでした



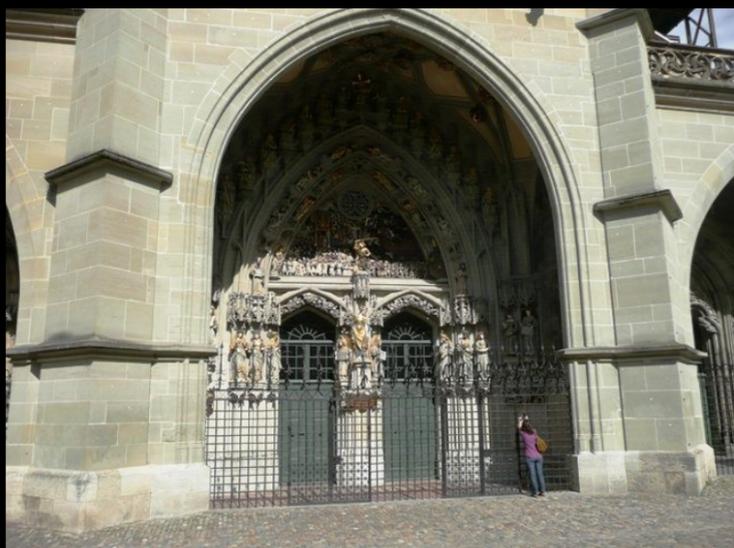
かってアインシュタインが住んでいたという家です。einsteinhaus と書かれています。



男4人揃い踏み



聖堂の前で



聖堂の入口の彫刻を写したつもりですが



川と古い住宅と森 ヨーロッパを感じます



ベルン観光を終えてバスで今夜の宿のあるwengenに向かいます



一路インターラーケンに向かうインターラーケンとは湖の間という意味だそうです、ここはトゥーン湖。かなり大きな湖でした。



湖の向うにインターラーケンの町が見えてきました。



氷河特急かな？と思いましたがあと調べるとこの辺は走っていないようでした





インターラーケンの町を過ぎて



見えてきた山 ユングフラウンヨッホか？



明日はガスの中かも知れないと思い、見えている今のうち  
写真を撮っておくことにする。



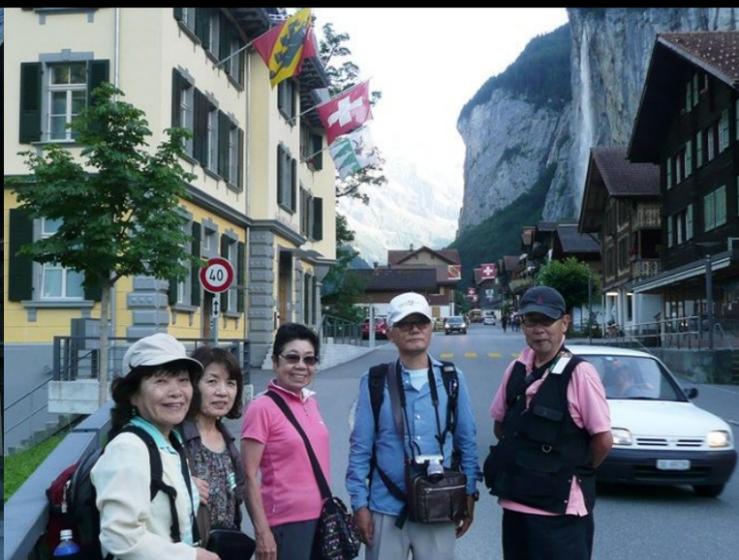
ラウターブルネン ここでバスから登山電車に乗り換える  
駅前で、遠くにシュタウプバッハの瀧が見えます



スイス名物登山電車 楽しみです。



明日は見れないかと思うと何回も同じような写真を撮る



電車待ちの間に小さなラウターブルネンの町を散策 瀧のところまで行ってみる



ラウターブルネンからベルゲン向かう登山電車中から

電車はアプト式で急勾配をかなりのスピードでどんどん登っていく



電車内の様子

スイスに来たという風景が広がり、ご満悦の二人 私も同感



電車は瞬く間に高度を上げます 1000m位を一気に登ります



正確にわかりました左の白い高い山がユングフラウンヨッホです

白い山と牧草と森と川 一段とスイスらしくなってきました



ラウターブルネンの町がすぐ下に見えます



スイスのヘンゲン最初のホテルに到着。やれやれやっと夕食にありつけましたがドイツミュンヘンへの出張で良く飲んだ懐かしいバイツェンビールがあるということで、全員で試飲することになった。この後のメインデッシュがサーモンと人参とパサパサライスで皆さん食べるものがなく不評、部屋も狭くこの先のもこんなのかと先が思いやられます。(これは杞憂であり、その後はまあまあのホテルと食事でした)

長い長い一日でした。家をでてから約38時間

ところがこの日はこれで終わらず、一つ部屋全員集まって談笑後、小生シャワーを浴びていると廊下かがあわただしい。パンツだけ履いてそっとドアを開けると緊急避難！外に出てくださいというと言われても思い、身づくろいして、外に出て見ると火事の警報が鳴ったという。消防車も出動 ようやく何事もなく部屋に帰ることができた。翌日添乗員から聞いたところによると狭いシャワー、トイレのところでタバコを吸った人が居て、煙感知器が働いたようだという。人ごとではないが現在はたまたま禁煙期間中で良かった！！